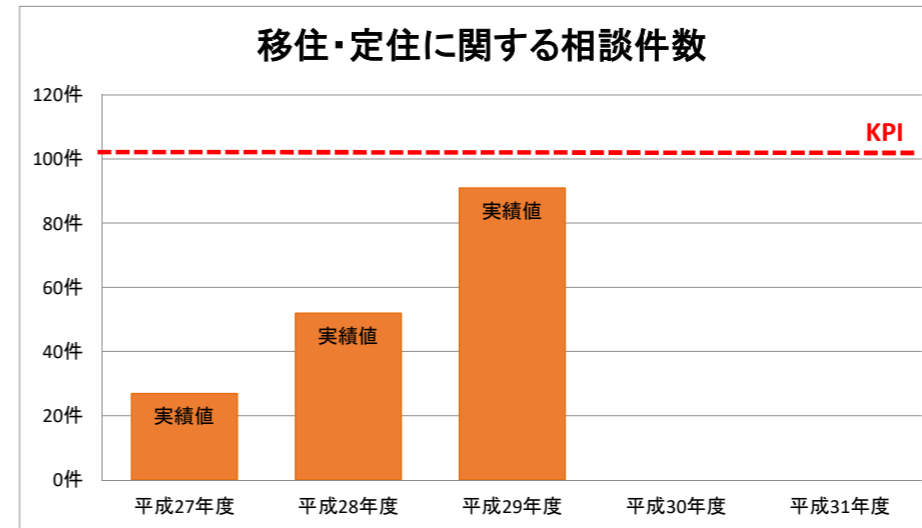


総合戦略効果検証シート

32	移住総合相談窓口による地方移住支援				
2-1-1	①	移住・定住に関する総合相談窓口の設置			
担当課	重要業績評価指標 (KPI) ※2019 (H31) 年度目標値			基準値 ※2014 (H26) 年度	
がんばる羽咋創生推進室	移住・定住に関する相談件数		100件 (累計)	11件(H27)	
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
目標値	15件	30件	50件	90件	
実績値	27件	52件(累計79件)	91件(累計170件)		
年度目標に対する達成率	180.0%	173.3%	182.0%		
基準値に対する増減率	145.5%	372.7%	727.3%		
評価	◎	◎	◎		
取組内容 PLAN	移住定住ワンストップ窓口の設置				
実績(具体的例:いつ、誰が、どこで、何を...)	平成27年度に、これまで各課で対応していた移住者対応を取りまとめるワンストップ窓口を設置し、職員1名(企画財政課兼務)体制で、移住者対応を行った。 平成28年度からは、職員を2名に増員し対応を行った。 主な業務内容は次のとおり。 ①移住相談受付91件、移住フェア84件 合計175件 ②移住体験住宅運用(酒井町チャレンジハウス・粟生町体験住宅) ③空き家情報バンク登録物件の内見・案内 ④移住体験ツアー実施(第1回:1組1人、第2回:4組12人、第3回:2組2人)				
DO					
分析 Check	移住を希望する人たちからの羽咋市の移住等に関する取り組みへの認知度が低く、羽咋市の施策を知ってもらうPRが必要である。また、移住希望者は移住を考え始めてから5~10年後に移住するケースが多く、地域のPR活動を継続して行っていくことが重要である。				
対応方向 Action	移住者への積極的な情報発信(移住フェア、HP、専門雑誌等)を継続して行うことにより移住先としての認知度を高め、将来的な移住につなげることでできるような次の取り組みを実施する。 ①複数の移住フェアに出展し、移住希望者に向けた積極的な情報発信 ②移住関連情報をHPやガイドブック等で発信 ③移住専門誌等への広告掲載による認知度のアップ				

総合評価項目

◎	取組内容の深化・発展
○	取組内容の継続
△	取組内容の見直し
×	取組の中止・終了



有識者会議による検証評価

意見	平成27年度 移住希望者に魅力ある施策を実施することが必要。例えば、自然栽培ならそれで生活できるような支援が必要であると思う。
	平成28年度 北陸新幹線などの影響もあり、石川県の認知度も高まると思われる。今後も継続していく必要がある。
	平成29年度 ①さらなるPRの拡充。 ②移住フェアなどへの積極的参加。 ③県内、金沢、小松などでもPRを。 ④相談窓口の継続。(安全安心、暮らしやすさを長い目で全力で応援する。) ⑤市民からの情報提供を見込むため、市民向けの情報発信も必要ではないか。 ⑥移住して本当に良かったといってもらえるような場所と言えるのか。まわり道だと思うが、根本から考えていく必要がある。
H27 総合評価	◎ 取組内容の深化・発展
H28 総合評価	◎ 取組内容の深化・発展
H29 総合評価	◎ 取組内容の深化・発展

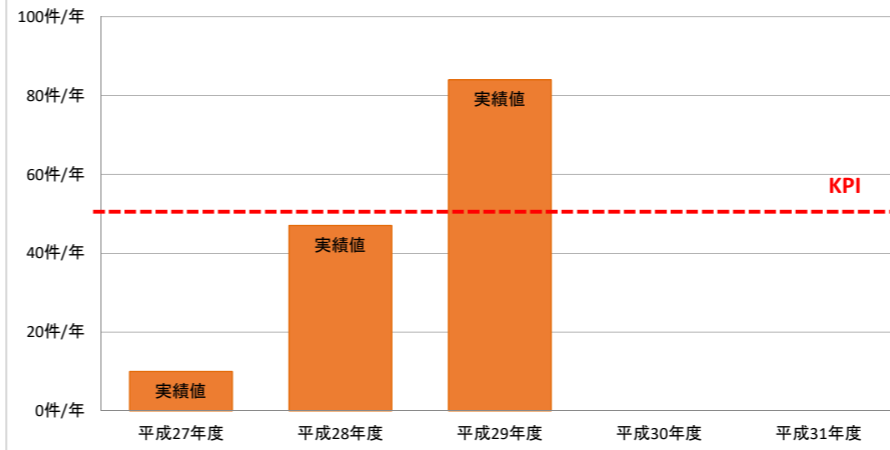
総合戦略効果検証シート

33	移住総合相談窓口による地方移住支援			
2-1-1	②	移住・定住に関する情報発信と支援制度の充実		
担当課	重要業績評価指標 (KPI) ※2019 (H31) 年度目標値			基準値 ※2014 (H26) 年度
がんばる羽咋創生推進室	首都圏等での移住フェアにおける相談件数		50件/年	7件/年(H27)
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
目標値	7件/年	10件/年	70件/年	70件/年
実績値	10件/年	47件/年	84件/年	
年度目標に対する達成率	142.9%	470.0%	120.0%	
基準値に対する増減率	42.9%	571.4%	1100.0%	
評価	○	◎	◎	
取組内容 PLAN	移住フェア等での移住・定住に関する情報発信及び相談受付等			
実績(具体的例:いつ、誰が、どこで、何を...)	[平成29年4月～平成30年3月] 移住フェア・セミナー 6回・羽咋会 3回 6/24 ふるさと関東羽咋会総会 (移住者支援制度・空き家情報バンク説明) 7/28～7/29 おいでや田舎暮らしフェア (大阪) (相談20件) 8/25 いい街発見! 地方の暮らしフェア (名古屋) (相談17件) 9/9～9/10 ふるさと回帰フェア (東京) (相談21件) 9/30 関西羽咋会総会 (移住者支援制度・空き家情報バンク説明) 10/1 北陸新幹線沿線4県合同移住フェア (東京) (相談 6件) 11/19 農家民宿&自然栽培セミナー (東京) (相談 3件) 11/26 中京羽咋会総会 (移住者支援制度・空き家情報バンク説明) 1/21 JOIN移住・交流&地域おこしフェア (東京) (相談10件)			
分析 Check	①移住フェアにおける羽咋市の知名度は、移住に関する取り組みが後発であることもあり低く、相談件数が前年よりは多くなったが今後さらなる増に向けた取り組みをする必要がある。 ②全国的に移住先進地と呼ばれるところは10年以上前から継続した取り組みを行っており、補助等の内容についても力を入れている市町が多かった。 (例:市が空き家を10年契約で借り、整備後に移住者に安価に貸し出す等)			
対応方向 Action	①移住フェア等に合わせて、移住専門誌等に羽咋市のPR広告を掲載し認知度の向上を図る。 ②1市単独ではセミナー等を開催しても人が集まらないため、石川県が東京都で開設した「いしかわ就職・定住総合サポートセンター (ILAC) やNPO法人ふるさと回帰支援センターとの連携して取り組みを行う必要がある。 ③これまで自然栽培のアンテナショップであった未来農業はくい放送局と連携し、移住に関する情報発信を行う。			

総合評価項目

◎ 取組内容の深化・発展
○ 取組内容の継続
△ 取組内容の見直し
× 取組の中止・終了

首都圏等での移住フェアにおける相談件数



有識者会議による検証評価

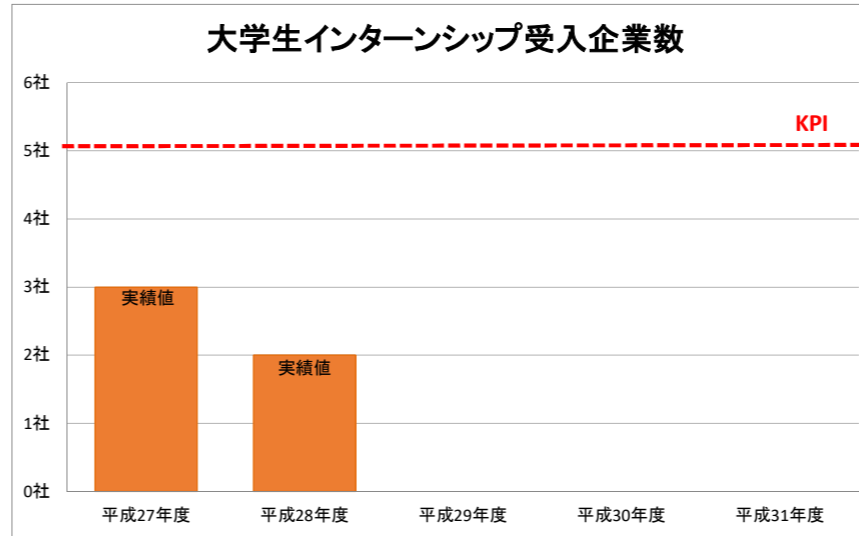
意見	平成27年度	①羽咋の認知度を上げるためロゴマークを作ってはどうか(喰の字・怪鳥の羽・くろう犬をイメージ化した)。 ②幅広く情報発信する手段を模索することも大事ですが支援内容の差別化も必要。
	平成28年度	1と2の情報発信をまとめて、支援制度は支援制度と分けて効果検証したらいいのではないかと。
	平成29年度	①Actionの方策に期待したい。 ②移住者への支援とともに、移住者を受け入れる側の住民の意識変化も必要。特に能登は保守的で、異文化を受け入れない土壌があり、多様な価値観を受け入れよう土壌作りも必要である。 ③移住は人とのつながりが大切で、相談者へのフォローが必要。 ④施策のNo.32とNo.33を分けずに一元化して取り組むべきでは。 ⑤相談件数が増えているのだからさらなる情報発信を強化。(例えば「広報はくい」にUターン組の家族などを紹介して羽咋の良さをアピールしてはどうか。) ⑥何をもち羽咋への移住の魅力とするのか。改めて、深化させる必要があるのでは。 ⑦相談件数だけでなく、マッチング数や定着率を踏まえた効果検証分析が必要。
	H27 総合評価	○ 取組内容の継続
H28 総合評価	◎ 取組内容の深化・発展	
H29 総合評価	◎ 取組内容の深化・発展	

総合戦略効果検証シート

34	移住総合相談窓口による地方移住支援			
2-1-1	③	UIJターン希望者と県内企業のマッチング支援		
担当課	重要業績評価指標 (KPI) ※2019 (H31) 年度目標値		基準値 ※2014 (H26) 年度	
商工観光課	大学生インターンシップ受入企業数	5社(累計)	0社	
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
目標値			3社	3社
実績値	3社	2社	未確定	
年度目標に対する達成率	—	—	—	
基準値に対する増減率	—	—	—	
評価	○	△	△	
取組内容 PLAN	県外に進学した学生や就職している方に、市内の企業の魅力を発信し、UIJターンによる就職の促進を図るため、働く体験の場を企業が学生に与える。			
実績(具体的例:いつ、誰が、どこで、何を...)	平成29年度実績企業数 未確定			
DO				
分析 Check	大手・中小企業問わず人手不足感があるため採用数は増やしており、大学生にとって売り手市場である。そういった中で、地元企業に目を向けるためにもインターンシップを行うことは重要であり、市内企業の魅力向上につながる活動となる。			
対応方向 Action	石川県や企業、学校と連携しながら、インターンシップ参加企業を確保し地元就職の促進につなげていきたい。			

総合評価項目

◎ 取組内容の深化・発展
○ 取組内容の継続
△ 取組内容の見直し
× 取組の中止・終了



有識者会議による検証評価

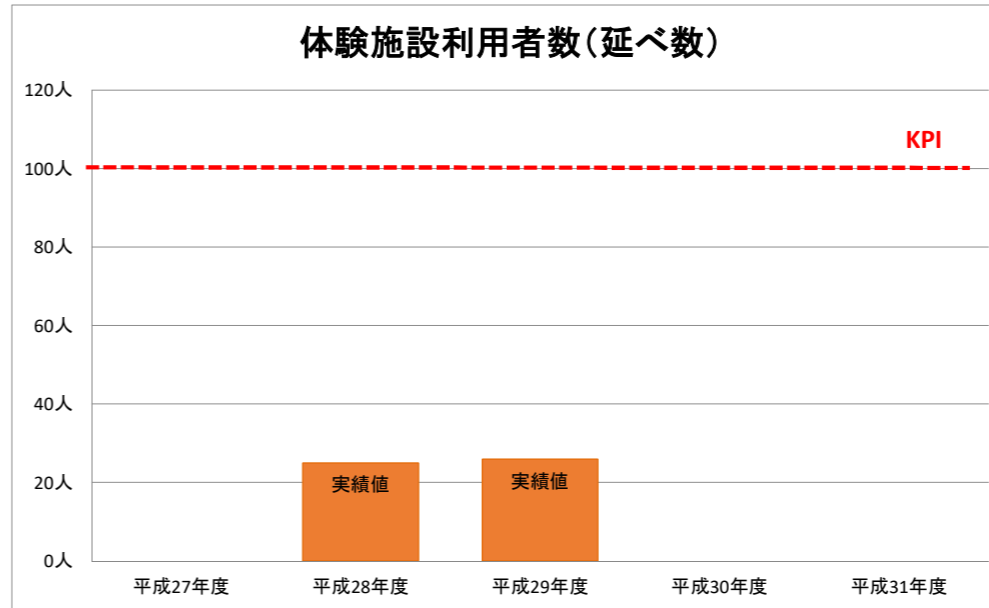
意見	平成27年度 (UIJターン者就職活動旅費助成件数について) ①県や企業との連携強化の他に、県内・近県の大学、専門学校との連携をしては(卒業後のリターン求む)。 ②さらなる支援に努めてほしい。
	平成28年度 ①市内企業の細やかな魅力発信がまだまだできると考えます。発信方法にも見直す余地があると思う。 ②中高時代から学校と連携していく。保護者にも。 ③(いしかわ創生パンフ) 中高対象、わかりやすく良かった。 ④もっと支援に努めて。
	平成29年度 ①学校と連携するだけでなく、保護者への制度PRが必要。 ②インターンシップ受入数だけでは測れないところかと。受け入れ人数や学生の属性などの情報が欲しい。 ③インターン参加企業向けの研修、学生を受け入れるにあたり、企業側の手段構築支援。 ④企業の市場フェア、働く環境、先輩社員の意見等、求人条件以外の魅力発信が重要と思われる。 ⑤支援を継続。 ⑥今の現状では大変厳しい。 ⑦取り組み内容が不明確で評価しづらい。 ⑧11月3、4日の羽咋市商工会主催の「羽咋産業展2018」について行政も積極的に活用してほしい。
H27 総合評価	○ 取組内容の継続
H28 総合評価	△ 取組内容の見直し
H29 総合評価	△ 取組内容の見直し

総合戦略効果検証シート

35	移住総合相談窓口による地方移住支援			
2-1-1	④	移住・交流体験施設の整備		
担当課	重要業績評価指標 (KPI) ※2019 (H31) 年度目標値		基準値 ※2014 (H26) 年度	
がんばる羽咋創生推進室	体験施設利用者数 (延べ数)	100人	0人 ※H28年度開始	
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
目標値			20人	20人
実績値	—	25人	26人	
年度目標に対する達成率	—	—	130.0%	
基準値に対する増減率	—	—	—	
評価			○	
取組内容	羽咋市での移住体験を希望する方に対し、短期間無料で宿泊できる移住体験住宅として空き家を2か所整備し、貸し出しを実施する。 (利用者の利便性を考慮し、平成30年度から市外地1か所(柳橋町)へ体験施設を集約)			
PLAN				
実績(具体的例:いつ、誰が、どこで、何を…)	<ul style="list-style-type: none"> 酒井町チャレンジハウス (10件:16人) 粟生町体験住宅 (9件:10人) 			
DO				
分析	全国的に移住先進地と呼ばれるところは10年以上前から継続した取り組みを行っており、補助等の内容についても力を入れている市町が多い。当市への移住検討してもらえるよう魅力や補助等の支援情報の発信を継続していくことが必要である。			
Check	羽咋市移住体験施設利用者の情報入手先は下記のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> アンテナショップ 3件 市HP 4件 市相談窓口 7件 フェア等 4件 知人から 1件 			
対応方向	①平成29年度の移住フェア実績を考慮し、東京と大阪で開催される移住フェアに継続して出展を行う。併せて移住専門誌等に羽咋市のPR広告を掲載し認知度の向上を図る。 ②1市単独ではセミナー等を開催しても人が集まらないため、石川県が東京都で開設した「いしかわ就職・定住総合サポートセンター (ILAC) やNPO法人ふるさと回帰支援センターとの連携して取り組みを行い、さらには、未来農業はくい放送局と連携し、移住に関する情報発信を行う。			
Action				

総合評価項目

◎ 取組内容の深化・発展
○ 取組内容の継続
△ 取組内容の見直し
× 取組の中止・終了



有識者会議による検証評価

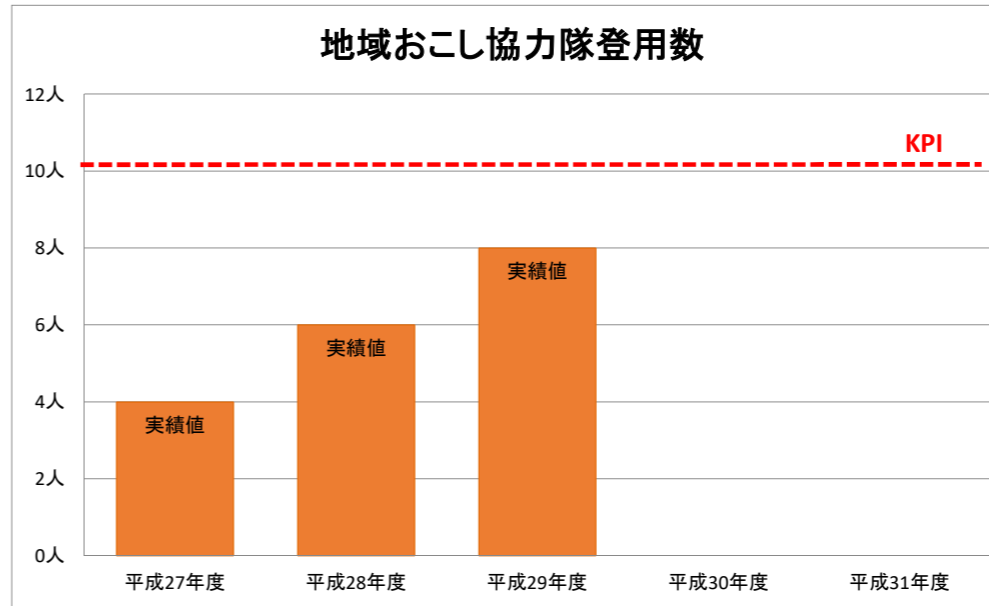
意見	平成27年度 ※総合戦略改訂後に追加した指標のため意見無
	平成28年度 ※総合戦略改訂後に追加した指標のため意見無
	平成29年度 ①ターゲットとなる年代層、家族構成はあるのか、誰でもいいのか。基本方針が明確であれば支援も具体的でPRしやすい。 ②移住希望者の中には運転免許証を持っていない人も多い。滞在中の移動を考えると市街地の住宅なども必要かと。 ③羽咋というまちを理解し、真剣に暮らしてくれる人を今後もしっかりサポートしてあげてほしい。 ④取り組み内容が不明確で評価しづらい。
H27 総合評価	
H28 総合評価	
H29 総合評価	○ 取組内容の継続

総合戦略効果検証シート

36	移住総合相談窓口による地方移住支援				
2-1-1	⑤	地域おこし協力隊の活用と支援			
担当課	重要業績評価指標 (KPI) ※2019 (H31) 年度目標値			基準値 ※2014 (H26) 年度	
まち・ひと・しごと創生本部事務局	地域おこし協力隊登用数 (延べ数)		10人	4人(H27)	
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
目標値	4人	8人	8人	10人	
実績値	4人	6人	8人		
年度目標に対する達成率	100.0%	75.0%	100.0%		
基準値に対する増減率	0.0%	50.0%	100.0%		
評価	◎	○	○		
取組内容 PLAN	総務省の地域おこし協力隊制度を活用し、地域の活性化を図る自然栽培普及やジビエ活用事業などの地方創生事業に従事する都市部の若者を受け入れるとともに、3年後の自立に向けた支援を行う。				
実績 (具体的例:いつ、誰が、どこで、何を...)	(平成29年度) ①自然栽培普及事業4人(うち新規2名)、ジビエ活用事業2人(うち新規0名)、道の商品開発2人(うち新規1名)の計8人を採用した。 ②地元定着を促進するため、採用前に1か月の実践研修を行っている。適正判断をするとともに、応募者には地域おこし協力隊をやっているかどうかを考える時間を与えている。 ③平成29年度をもって4人が任期を満了し、うち2人はそれぞれ会社(のとしし団、はくい式自然栽培合同会社)を設立している。また、他の2人は道の駅のと千里浜へ就職したことにより、計4人が本市に定着している。				
DO					
分析 Check	地域おこし協力隊は、地域に溶け込み、地域の活性化の一助となっている。各隊員が3年後に自立および地元定着できる支援体制の充実が必要である。				
対応方向 Action	本市の活力維持のためには、地域おこし協力隊員の受け入れが不可欠である。各担当課において、地域おこし協力隊の担う役割、3年後の自立計画を協力隊員とともに構築するための支援を行う。				

総合評価項目

◎ 取組内容の深化・発展
○ 取組内容の継続
△ 取組内容の見直し
× 取組の中止・終了



有識者会議による検証評価

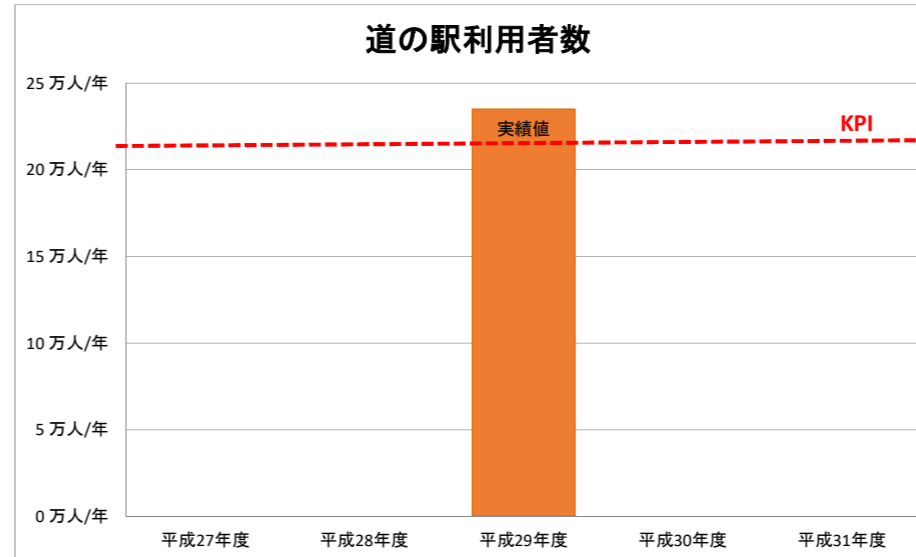
意見	平成27年度 ①現事業の採算性はあるのか。 ②地域おこし協力隊の定着は望ましいが、短期でも新しい知識や考え方が入ってきて良いと割り切ることも必要。 ③受け入れる地域(町会)の理解も必要だと思う
	平成28年度 縁あって羽咋に来てくれた人なので、自立支援に力を入れてほしい。
	平成29年度 ①今後も制度を活用し、市の活性化、定住促進につなげてほしい。 ②現在求める若い力にますます活躍してほしい。 ③各地域への説明、意見等の吸い上げを行った方がいいのでは。様々な需要があると思う。
H27 総合評価	◎ 取組内容の深化・発展
H28 総合評価	○ 取組内容の継続
H29 総合評価	○ 取組内容の継続

総合戦略効果検証シート

37	観光、歴史文化、スポーツ等の活性化を通じた交流人口の拡大				
2-2-1	①	『道の駅のと千里浜』を核とした交流人口の拡大			
担当課	重要業績評価指標 (KPI) ※2019 (H31) 年度目標値			基準値 ※2014 (H26) 年度	
6次産業創生室	道の駅利用者数		21万人/年	0万人/年 ※H29年度開業	
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
目標値	0万人/年	0万人/年	16万人/年	21万人/年	
実績値	開業前のため未記入	※H29.7.7オープン	23.5万人/年		
年度目標に対する達成率	—	—	146.88%		
基準値に対する達成率	—	—	—		
評価	○	○	◎		
取組内容	地方創生の取り組みの中で、観光交流拠点や地域経済の活性化を目的とし、道の駅のと千里浜から地域の特産品や情報を発信していく。				
PLAN					
実績(具体的例:いつ、誰が、どこで、何を…)	平成29年7月7日開業				
DO					
分析					
Check	①冬場の入込が夏場の約1/6まで減少した(8月:12万人、2月:2.1万人) ②売れ筋の商品は道の駅独自の商品(カレーパン・ジェラート・清酒など) ③客層としては、近郊および金沢周辺が主力であり、地元の方が利用しやすいような販売方法を拡大していく必要がある。 ④道の駅の検索サイトでは、英語での検索が県内道の駅で上位となっている。				
対応方向					
Action	①地域商社機能の中で、継続した商品開発を継続していく。 ②開発に際しては、地元のものを活用した商品群で進捗させる。 ③店舗販売は、羽咋まちづくり(株)で行っているが、外商・ネット販売・ふるさと納税など店舗外の販売額を拡大していくことで、より地域経済への貢献を行う。 ④軒下(4mのひさし)を有効活用し、店舗の面積を拡大する取り組みを行う。				

総合評価項目

◎ 取組内容の深化・発展
○ 取組内容の継続
△ 取組内容の見直し
× 取組の中止・終了



有識者会議による検証評価

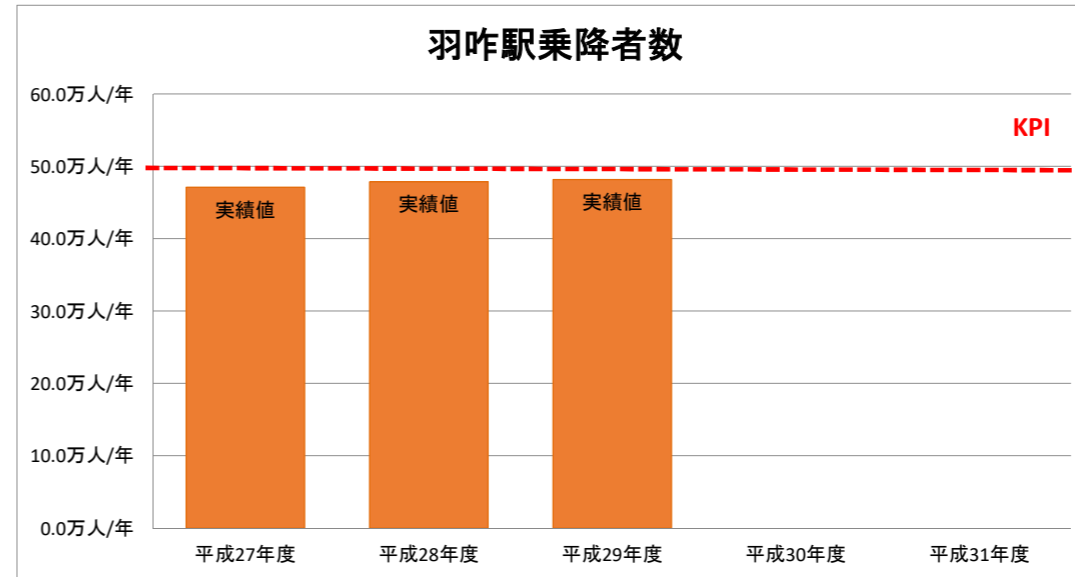
意見	平成27年度 ①道の駅運営には採算(運営会社単体の損益ではなく、土地建物合算ベースの経常利益)を最大限重視し、市民の追加負担が出ないような運営を期待したい。 ②期待しています。
	平成28年度 ①神子原米と同じような勢いで、自然栽培米も売れてほしい。 ②Webサイトのアクセス数も効果検証に使えるのでデータを出してほしい。 ③まずは道の駅がオープンしてみないことには、何もわからない。
	平成29年度 ①「足の湯」利用提供を通年化できないか。 ②道の駅を拠点にコスモアイル羽咋、妙成寺、気多大社へ出向く仕掛けを。(各観光地の巨大写真パネルと地図を道の駅に設置するなど、行きたくするような工夫を。) ③道の駅関連事業が多く、似通った内容も同様であるため、整理が必要。 ④「道の駅のと千里浜」の盛況ぶりは分かるが、これを市内全域に波及させることが一番大事。物産についてはある程度広がりがあるが、肝心の市内への人の流入、市内の賑わいには必ずしも結びついていないと思慮。 ⑤道の駅の観光情報基地としての機能強化も図るべきでは。 ⑥今後も新しい商品開発を。羽咋にしかないオンリーワンがあればなおさらよい。 ⑦時期に応じたイベントを定着させてはどうか。(ビアガーデン、砂像体験、グルメ市など)
	H27 総合評価
H28 総合評価	○ 取組内容の継続
H29 総合評価	○ 取組内容の継続

総合戦略効果検証シート

38	観光、歴史文化、スポーツ等の活性化を通じた交流人口の拡大			
2-2-1	②	羽咋駅周辺の整備【再掲】		
担当課	重要業績評価指標 (KPI) ※2019 (H31) 年度目標値		基準値 ※2014 (H26) 年度	
地域整備課	羽咋駅乗降者数		49万人/年	47万人/年
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
目標値	47.5万人/年	47.5万人/年	47.5万人/年	47.5万人/年
実績値	47.2万人/年	47.9万人/年	48.2万人/年	
年度目標に対する達成率	99.3%	100.8%	101.4%	
基準値に対する達成率	0.4%	1.9%	2.6%	
評価	○	○	○	
取組内容 PLAN	①羽咋駅東口ロータリーの整備 ②羽咋駅西歩行空間の整備 ③羽咋市の玄関口にふさわしい駅前広場やトイレ等の整備			
実績(具体的例:いつ、誰が、どこで、何を...) DO	羽咋駅西広場整備 C=80,810千円 通路上屋改築 C=36,925千円 多目的トイレ新築 C=10,372千円 ロータリー広場整備 C=26,883千円 地下道改修 C=6,630千円			
分析 Check	駅西広場は、平成28年度からトイレ改修に着手し、通路上屋改築や多目的トイレの新築、ロータリー広場整備を実施し、利便性の向上を図った。			
対応方向 Action	平成30年度は、羽咋駅周辺の魅力とマルシェ跡地の活用を検討する駅周辺整備基本構想の策定に取組む。			

総合評価項目

◎	取組内容の深化・発展
○	取組内容の継続
△	取組内容の見直し
×	取組の中止・終了



有識者会議による検証評価

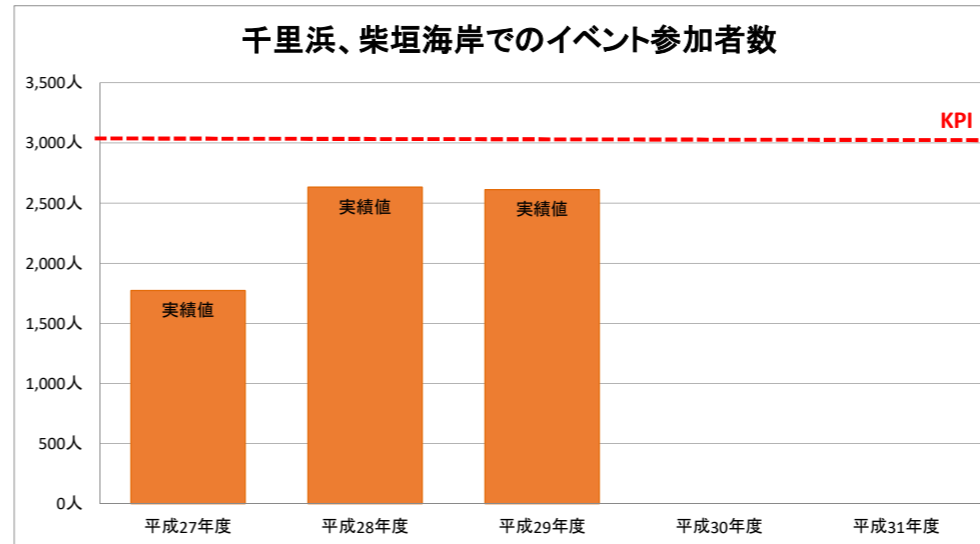
意見	平成27年度 ①車で羽咋市を訪れる方の割合が圧倒的に多いので、駅以外の整備に予算を回した方がよい。 ②△に近い。
	平成28年度 ①今後、高齢者による鉄道利用もあると思うので整備は大切。 ②観光に関して、タクシーやレンタサイクルなどの利用状況もデータとして必要なのではないだろうか。
	平成29年度 ①まずはマルシェ解体を早急に。イメージが悪い。 ②駅の存在感が薄く感じる。基本構想に期待する。 ③効果検証シートの通り、マルシェ跡地の活用が急務であると感じる。
	H27 総合評価 ○ 取組内容の継続
H28 総合評価 ○ 取組内容の継続	
H29 総合評価 ○ 取組内容の継続	

総合戦略効果検証シート

39	観光、歴史文化、スポーツ等の活性化を通じた交流人口の拡大			
2-2-1	③	めぐまれた自然環境の保全と利活用		
担当課	重要業績評価指標 (KPI) ※2019 (H31) 年度目標値		基準値 ※2014 (H26) 年度	
商工観光課	千里浜、柴垣海岸でのイベント参加者数	3,000人	1,928人	
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
目標値	1,940人	2,100人	3,000人	3,000人
実績値	1,772人	2,634人	2,612人	
年度目標に対する達成率	91.3%	125.4%	87.1%	
基準値に対する増減率	-8.1%	36.6%	35.5%	
評価	△	◎	△	
取組内容 PLAN	「日本で唯一車で走れる」という特徴を活かし、千里浜海岸を会場とするイベントを実施する。			
実績(具体的例:いつ、誰が、どこで、何を...) DO	平成29年度イベント ジェットスキー、SSTR、砂像体験コーナー、CHIRIHAMA SAND FLATS			
分析 Check	オートバイイベントについては、年々参加者が増加している。平成29年度は前年まで開催されていた千里浜ちびっこ駅伝は未開催のため目標値を若干下回った。			
対応方向				
Action	千里浜海岸、柴垣海岸のPRを行い、イベントの持続、新規誘致を検討しながら、交流人口の増加を図っていききたい。			

総合評価項目

◎ 取組内容の深化・発展
○ 取組内容の継続
△ 取組内容の見直し
× 取組の中止・終了



有識者会議による検証評価

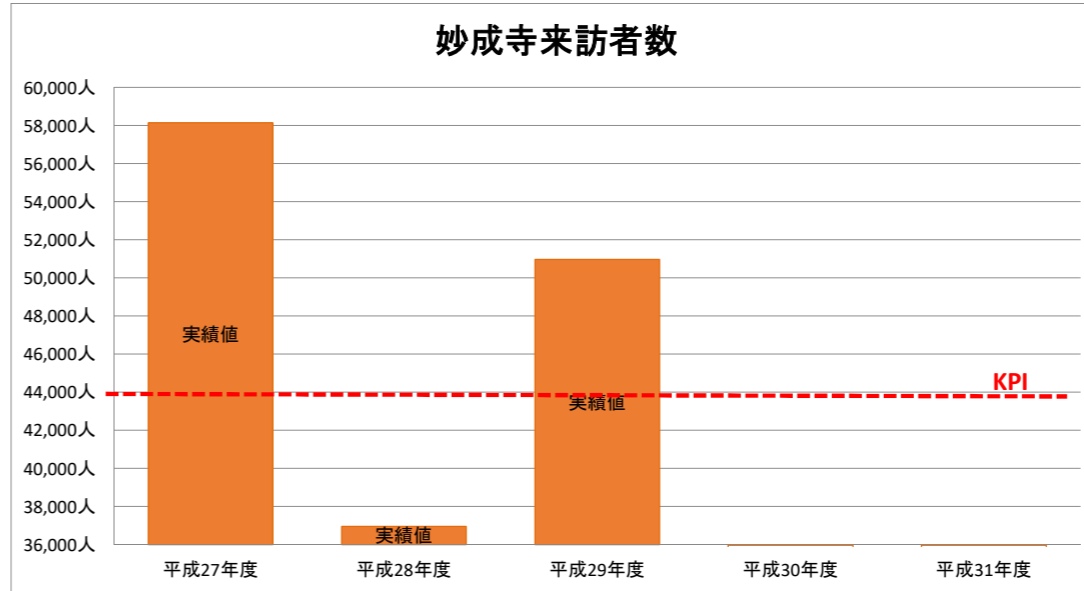
意見	平成27年度 ①千里浜を「日本で唯一車で走れる」だけでなく「世界で数カ所しかない」をアピール(年配者では羽咋市民でも知らない人が多い)。 ②保護活動が必要。「活動する人求む」という点でもアピール。 ③新たな砂浜イベントの企画、歴史文化財の利活用を検討しては。また、幅の広い年齢層を対象としたイベントを実施できないか検討しては。
	平成28年度 ①新たなイベントを考えてみるのも手ではないか。 ②歴史文化財を活用したイベント等(グループは違うが婚活等)
	平成29年度 ①イベントの開催により、飲食業、宿泊施設が潤う。積極的に継続の働きかけと誘致を行うべき。 ②浸食される千里浜の保全が引き続き重要課題である。あきらめずに、唯一の千里浜を守っていく試みは必要だし、今後さらに力を入れていきたい。専門家を引き続き活用し、保全事業を。 ③市民が魅力を再発見するイベントを検討してもよいのでは。 ④音楽イベントはより幅広い層の集客ができると感じる。 ⑤千里浜や文化財など確かに今手にしているものを活用することが最優先であり、确实。 ⑥イカリモンハンミョウの知名度向上策を。 ⑦新たなイベントとして、車で千里浜に向かってきてもらうイベントをしてはどうか。ファミリーで参加する際にオートキャンプやグランピングができるよう、電源、水道等を整備する。 ⑧春にはSSTR、秋にはまた違ったバイクイベントを誘致する。 ⑨千里浜を全面に推すなら海岸保全にもっと力を入れるべき。
	H27 総合評価
H28 総合評価	◎ 取組内容の深化・発展
H29 総合評価	○ 取組内容の継続

総合戦略効果検証シート

40	観光、歴史文化、スポーツ等の活性化を通じた交流人口の拡大				
2-2-1	④	歴史文化財の保護と観光振興の連動			
担当課	重要業績評価指標 (KPI) ※2019 (H31) 年度目標値			基準値 ※2014 (H26) 年度	
文化財室 商工観光課	妙成寺来訪者数		44,000人	39,800人	
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
目標値			44,000人	55,000人	
実績値	58,165人	36,974人	50,988人		
年度目標に対する達成率	—	—	115.9%		
基準値に対する増減率	46.1%	-7.1%	28.1%		
評価			◎		
取組内容 PLAN	①妙成寺来訪者数増加のため、県事業を活用し、旅行団体に対するPR活動を行った。 ②ボランティアガイドを活用し、PR及び観光ガイドを行った。				
実績(具体的例:いつ、誰が、どこで、何を...) DO	平成29年度に関しては、平成28年度と比べ大幅に増加した。				
分析 Check	旅行団体へのPR、また妙成寺側の受け入れ体制の整備が年々整っているため、訪問客数の増加に繋がっていると考えられる。				
対応方向 Action	今後は、ボランティアガイドを継続的に行い、リピーターも含めて誘客につなげていけるよう市としても後押しをしていく。				

総合評価項目

◎	取組内容の深化・発展
○	取組内容の継続
△	取組内容の見直し
×	取組の中止・終了



有識者会議による検証評価

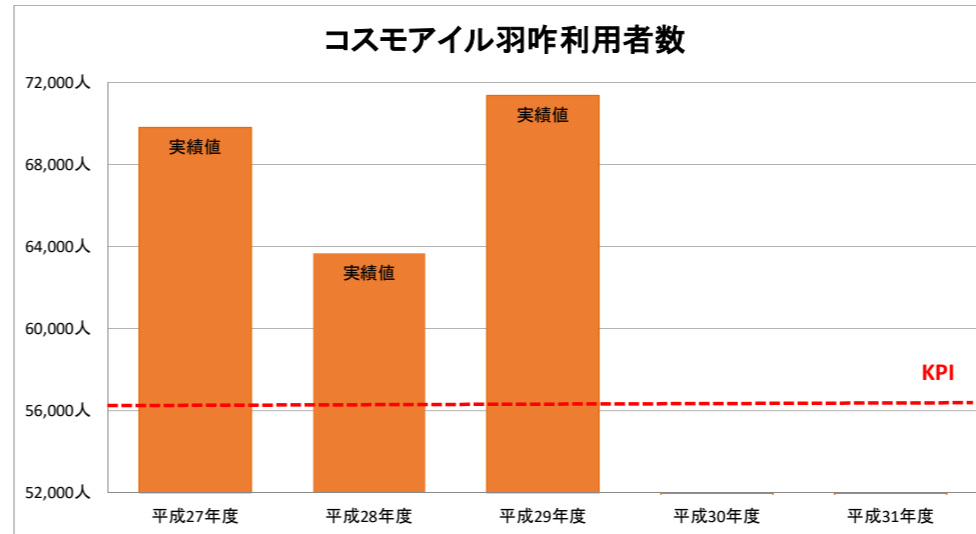
意見	平成27年度 ※総合戦略改訂後に追加した指標のため意見無
	平成28年度 ※総合戦略改訂後に追加した指標のため意見無
	平成29年度 ①永光寺も非常に魅力がある。妙成寺とあわせて誘客増を。宗教の文化としての奥の深さも周知すべきである。 ②数だけでなく質の評価もあってもいいのではないかと。 ③市の他の観光スポットとの連携も。 ④ボランティアガイド育成支援を。 ⑤書道部等の文化部合宿受け入れ支援を。 ⑥県内高校、大学等へ文化部合宿提案を。 ⑦「妙成寺」を国宝にすべく、今後も後押ししていくべき。
H27 総合評価	
H28 総合評価	
H29 総合評価	◎ 取組内容の深化・発展

総合戦略効果検証シート

41	観光、歴史文化、スポーツ等の活性化を通じた交流人口の拡大				
2-2-1	⑤	博物館・歴史文化施設の改修と利活用			
担当課	重要業績評価指標 (KPI) ※2019 (H31) 年度目標値		基準値 ※2014 (H26) 年度		
生涯学習課	コスモアイル羽咋利用者数	56,200人	53,580人		
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
目標値	53,700人	59,070人	59,070人	64,000人	
実績値	69,812人	63,689人	71,369人		
年度目標に対する達成率	130.0%	107.8%	120.8%		
基準値に対する増減率	30.3%	18.9%	33.2%		
評価	◎	◎	◎		
取組内容 PLAN	宇宙科学博物館コスモアイル羽咋の改修				
実績(具体的例:いつ、誰が、どこで、何を…)	平成29年度、芝生広場暗渠工事、空調設備(空冷ヒートポンプチャラー)の修繕を実施した。				
分析 Check	芝生広場の暗渠を修理したことにより、これまでイベントや駐車場として利用していた芝生広場が、雨天時などにも利用しやすくなり、利用者から喜ばれている。				
対応方向	開館から22年が経過しており、施設の老朽化に伴い、今後、指定管理者と協議をしながら優先順位を決め、計画的な工事、修繕を実施する。				
Action					

総合評価項目

◎	取組内容の深化・発展
○	取組内容の継続
△	取組内容の見直し
×	取組の中止・終了



有識者会議による検証評価

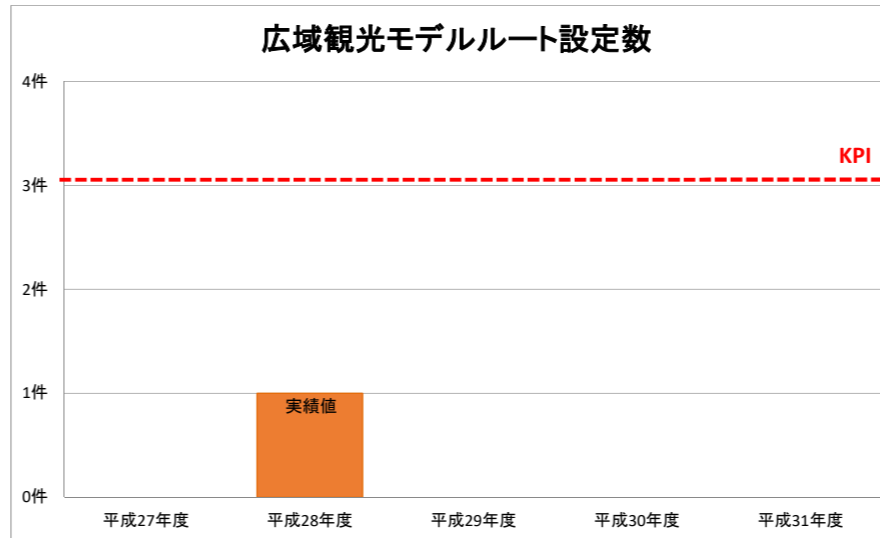
意見	平成27年度	<ul style="list-style-type: none"> ①地元小中学生の科学への関心を高める狙いから、地元小中学生限定のコスモアイル年間パスポートの販売を行ってはどうか。 ②コスモアイル羽咋だけでなく寺院遺跡、歴史等も羽咋はすばらしいものがある。現在、古き物が若い人たち(都会の)に人気が出てきているので、その流行を利用すべき。 ③目標値の設定が適当なのかわからない。
	平成28年度	<ul style="list-style-type: none"> ①コスモアイル羽咋には一定の成果が出ているので歴史や寺社に目を向けてもらいたい。 ②27年度の意見と同じ。改修だけでなく、利活用案も必要。 ③都会(国立科学博物館など)で、特別展をやればいい。 ④コスモアイル羽咋の展示内容に変化なし。リピーターにとっては変わり栄えなし。レイアウト替えをしてほしい。 ⑤さらに交流人口の拡大に努めて。
	平成29年度	<ul style="list-style-type: none"> ①家族が楽しめるイベント、全国から誘客できるイベントを考えてほしい。 ②コスモアイル羽咋は、駐車場もあり、集客能力は高い。芝生広場でのテント村イベント等を多く行い、利活用の幅を広げてほしい。 ③単発の工作教室、科学教室等を行い、小学生の来館者を増やす。参加回数に応じてコスモシアターの招待などしてみてもどうか。(コスモアイルまつりなど) ④大ホールのトイレは和式が多い。洋式に変えるべきだと思う。 ⑤改修のみで評価すべきだろうか。前年度以前の意見の実施検討を期待する。
	H27 総合評価	◎ 取組内容の深化・発展
H28 総合評価	◎ 取組内容の深化・発展	
H29 総合評価	◎ 取組内容の深化・発展	

総合戦略効果検証シート

42	観光、歴史文化、スポーツ等の活性化を通じた交流人口の拡大				
2-2-1	⑥	広域連携による周遊観光の促進			
担当課	重要業績評価指標 (KPI) ※2019 (H31) 年度目標値		基準値 ※2014 (H26) 年度		
商工観光課	広域観光モデルルート設定数	3件	0件		
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
目標値	1件	1件	1件	1件	
実績値	0件	1件	0件		
年度目標に対する達成率	0.0%	100.0%	0.0%		
基準値に対する増減率	—	—	—		
評価	△	◎	△		
取組内容 PLAN	交流人口の拡大のために、羽咋郡市1市2町で連携し、広域観光の周遊ルートを設定することにより、広域観光の情報発信が図られる。				
実績(具体的例:いつ、誰が、どこで、何を…)	いしかわ里山里海サイクリングルートの設定を行った。				
DO					
分析 Check	作成したルートを利用しながら、市内の周遊への情報発信が必要である。				
対応方向 Action	1市2町での広域連携を継続しながら、その広域観光ルートを補完するような市内周遊ルートの作成、新たな周遊ルートの模索、その他観光イベントとの連携を図ってきたい。				

総合評価項目

◎ 取組内容の深化・発展
○ 取組内容の継続
△ 取組内容の見直し
× 取組の中止・終了



有識者会議による検証評価

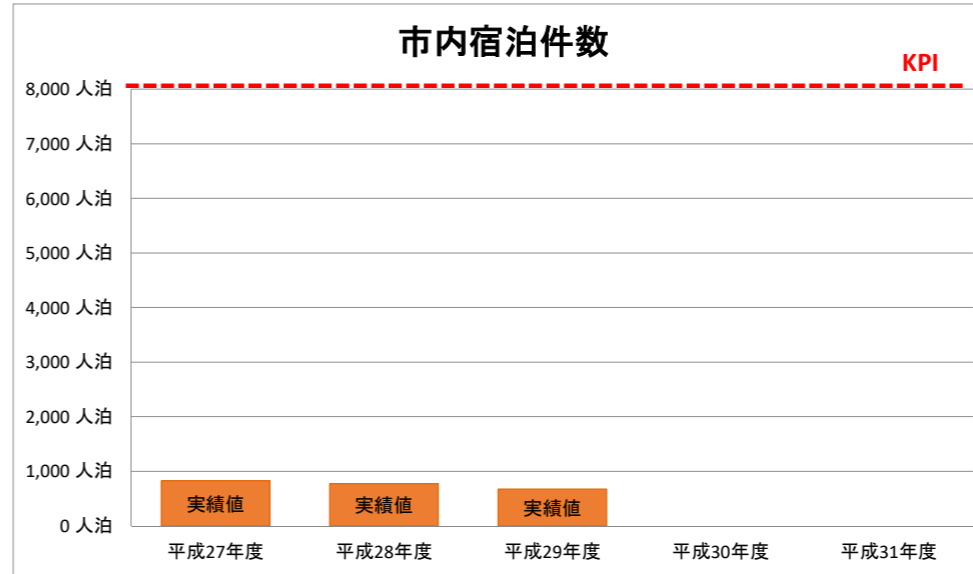
意見	平成27年度 ①道の駅供用開始後に季節毎に1市2町の道の駅共通企画を行うなど連携を深めてほしい。1本より3本の矢。 ②モデルルートの具体的な部分がよくわからないが、テレビ観光番組では、金沢⇄羽咋⇄富山、金沢⇄羽咋⇄奥能登が紹介されているようです。
	平成28年度 ①サイクリングと車の双方向の設定があってもよい。 ②各ポイントを設定。スタンプラリーにするとどうか。 ③ルート設定数だけでなく、ルート利用状況も必要では。 ④サイクリングルートのモデルルート!? 宿泊業者だが初めて聞いた。サイクリングルートの整備と周知を。 ⑤道の駅を軸にした施策の展開に期待。
	平成29年度 ①歩くコース、走るコース等、健康寿命と関連付けて、いくつかのコース設定をしてはどうか。 ②羽咋郡市での周遊観光は魅力が薄い。氷見市、高岡市と結ぶなど広域化が必要。 ③この取り組みによる交流人口の増数等の情報がないと評価できかねる。 ④情報発信は重要。外部のみならず、市民にも周知しなければ、迷子や自転車トラブル等への対応ができない。市民への周知にもつとめ、旅行者への対応協力をあおぐ必要があるのでは。 ⑤神子原の棚田散策、自然栽培の農業体験ができる修学旅行を誘致する。 ⑥設定だけでは情報発信力が弱すぎる。サインの設置や市民向けの情報強化を望む。 ⑦ECO的なものについては極力、積極的に取り組むのが羽咋市のイメージづくりにとっていいように思う。なのでサイクリングは◎。
	H27 総合評価
H28 総合評価	◎ 取組内容の深化・発展
H29 総合評価	△ 取組内容の見直し

総合戦略効果検証シート

43	周遊滞在型観光の推進				
2-2-2	①	合宿・修学旅行の積極的誘致			
担当課		重要業績評価指標 (KPI) ※2019 (H31) 年度目標値		基準値 ※2014 (H26) 年度	
商工観光課		市内宿泊件数		8,000人泊 (累計)	1,493人泊
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
目標値	1,500人泊	1,500人泊	1,500人泊	1,500人泊	
実績値	827人泊	775人泊 (累計1,602人泊)	675人泊 (累計2,277泊)		
年度目標に対する達成率	55.1%	51.7%	45.0%		
基準値に対する増減率	-44.6%	-48.1%	-54.8%		
評価	△	△	△		
取組内容	市外の学校等が、合宿及び修学旅行を行う目的に市内の宿泊施設に宿泊したとき、助成金を交付する。 助成金額：1,000円×人泊数 (上限20万円)				
PLAN					
実績(具体的例:いつ、誰が、どこで、何を…)	平成29年度実績 9件 (675人泊)				
DO					
分析	①15人泊未満の合宿等については、補助対象外であり、補助対象外となっている小規模な団体が存在すると推測される。 ②大規模な宿泊団体として、部活等のスポーツ団等体の合宿があるが、体育施設等確保の関係から教育研修施設である青少年交流の家を利用しており、大規模なスポーツ団体が補助対象の宿泊施設を利用するようPRしていくことが必要と思われる。				
Check					
対応方向	例えば、「合宿最終日の宿泊を市内の宿泊施設を利用して行う」というような提案ができるよう、より制度の利用を促す活動や、広く周知するために効果的と思われる情報発信媒体の活用を検討する。				
Action					

総合評価項目

◎ 取組内容の深化・発展
○ 取組内容の継続
△ 取組内容の見直し
× 取組の中止・終了



有識者会議による検証評価

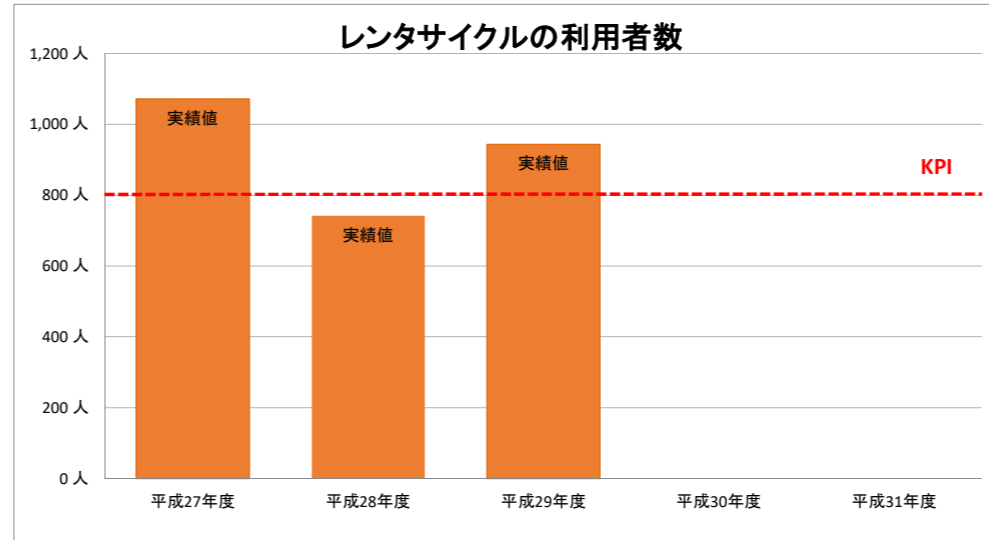
意見	平成27年度 今市内で宿泊できる施設の中で、誰や何を目的 (ターゲット) とした誘致をPRしていくのかを明確にした方がよい。
	平成28年度 何を目的とした合宿を誘致するのか定まっていなくてPRも難しい。追加のアイデアがあればよい。
	平成29年度 ①「青少年交流の家」の活用を推進すべき。 ②合宿、大会を誘致するためには体育館の冷房化、サッカー、陸上グラウンド等ハード面の充実が先ではないか。 ③市内宿泊施設利用者の体育施設等への移動に市バスを安価で利用できる等のセットパックにしてPRを。 ④千里浜海岸や長手島のマリンスポーツをアピールしてはどうか。 ⑤効果や目的が不明確。
H27 総合評価	△ 取組内容の見直し
H28 総合評価	△ 取組内容の見直し
H29 総合評価	△ 取組内容の見直し

総合戦略効果検証シート

44	周遊滞在型観光の推進			
2-2-2	②	多様化するニーズに対応した観光メニューの開発		
担当課	重要業績評価指標 (KPI) ※2019 (H31) 年度目標値		基準値 ※2014 (H26) 年度	
商工観光課	レンタサイクルの利用者数	800人	444人	
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
目標値	470人	1,000人	1,000人	1,000人
実績値	1,071人	742人	943人	
年度目標に対する達成率	227.9%	74.2%	94.3%	
基準値に対する増減率	141.2%	67.1%	112.3%	
評価	◎	○	△	
取組内容 PLAN	当市は、公共交通機関の利便性が高くなく、また、環境に配慮した周遊方法を模索する必要がある。そこで鉄道等を利用して羽咋にきた観光客の2次交通を補完するものとして、自転車により観光周遊できるように、レンタサイクルの活用を促す。			
実績(具体的例:いつ、誰が、どこで、何を...) DO	平成29年度実績 ちりはまホテルゆ華 177人 千里浜レストハウス 197人 JR羽咋駅 330人 休暇村能登千里浜 239人			
分析 Check	北陸新幹線開業があった平成27年度と比べると利用者が減少しているものの前年度数値、基準値は上回った。周遊サイクリングルートは策定はされているが、周知が十分にされておらず影響が少ない。			
対応方向 Action	サイクリングルートの周知に重点を置き、特に宿泊観光客に利用を促進できるようPRを進めていきたい。			

総合評価項目

◎ 取組内容の深化・発展
○ 取組内容の継続
△ 取組内容の見直し
× 取組の中止・終了



有識者会議による検証評価

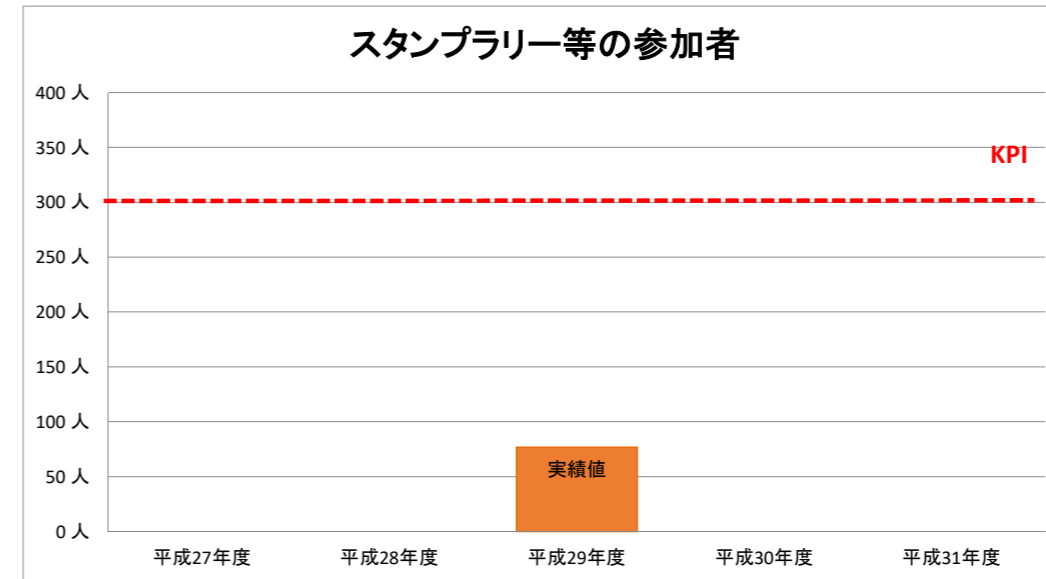
意見	平成27年度 ①「道の駅」ができることによって、かなり人の流れが変わると思うので、その時の対応が大切だと思う。 ②イベントによるPR効果も期待できそうです。 ③わからない人が見てわかるような目印を設置しては。
	平成28年度 ①道の駅にもレンタサイクルをおいてはどうか。 ②スタンプラリーはどうか。(羽咋七塚めぐりルートなど) ③目標値が「レンタルサイクルの利用者数」であることがおかしくはないか。これはサイクリングルートの評価に使うべきでは。 ④レンタサイクルに乗っていると思われる人をほとんど見かけない。 ⑤レンタサイクルをもっとPR。わかりやすい小さな看板設置。 ⑥サイクリングルートと観光地の連携。 ⑦駅東には巖門までのルートmapがあるが、ママチャリでは実質無理である。羽咋周辺のサイクリングmap作成。 ⑧もっとPRが必要だ。
	平成29年度 ①利用者の属性など、具体的な情報が欲しい。 ②有料のレンタサイクルに市内商店街で使えるスイーツやおつまみ等の引き換え券をつけてはどうか。お店の人と、どこから来たか話したりすることで、交流のきっかけができていいのでは。 ③レンタサイクルの範囲拡大、システム化。
	H27 総合評価 ◎ 取組内容の深化・発展
H28 総合評価 ○ 取組内容の継続	
H29 総合評価 △ 取組内容の見直し	

総合戦略効果検証シート

45	周遊滞在型観光の推進				
2-2-2	③	「地域の宝」を生かした対流滞在型観光の充実			
担当課	重要業績評価指標 (KPI) ※2019 (H31) 年度目標値			基準値 ※2014 (H26) 年度	
商工観光課	スタンプラリー等の参加者	300人(累計)	0人 ※H29年度開始		
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
目標値			300人	300人	
実績値	—	—	77人		
年度目標に対する達成率	—	—	25.7%		
基準値に対する増減率	—	—	—		
評価			△		
取組内容 PLAN	市内への観光客の増加、特に市内各観光地への周遊を促進するため、道の駅のと千里浜から主要観光地を廻るスタンプラリーの開催を行った。				
実績(具体的例:いつ、誰が、どこで、何を…)	スタンプラリー参加者: 77人				
DO					
分析 Check	スタンプラリー参加者については、77人と目標は下回ったが、市内観光地の周遊に繋がりが、滞在客の増加、観光地PRに繋がった。				
対応方向 Action	道の駅「のと千里浜」を拠点とし、今後も交流人口の拡大、市内への周遊につながる企画を考え実行していく。				

総合評価項目

◎	取組内容の深化・発展
○	取組内容の継続
△	取組内容の見直し
×	取組の中止・終了



有識者会議による検証評価

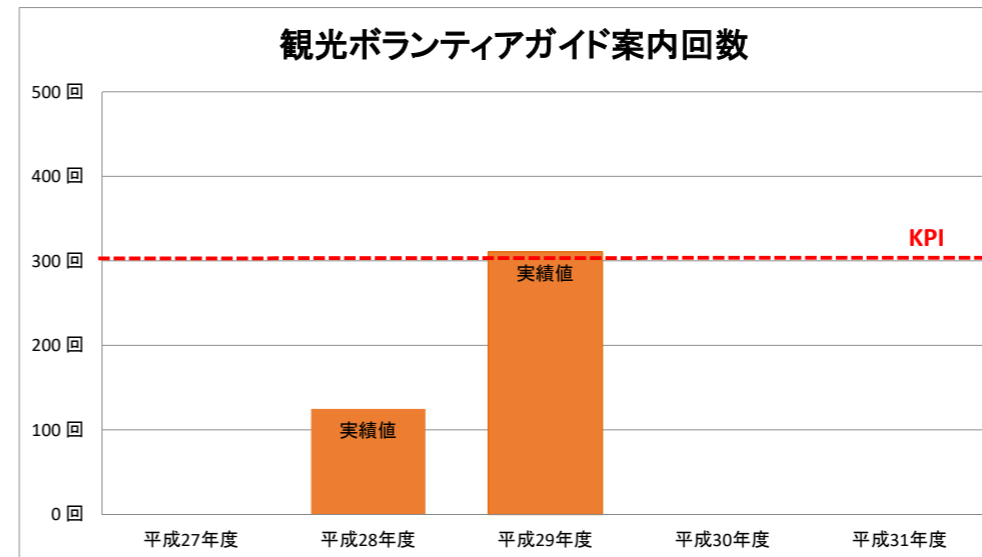
意見	平成27年度 ※総合戦略改訂後に追加した指標のため意見無
	平成28年度 ※総合戦略改訂後に追加した指標のため意見無
	平成29年度 ①参加者が増えるように改善を。 ②目標300人→実際77人に対し、Checkにおいて打ち手の検証と分析を。(どのくらい情報発信ができていたのか、参加者の属性など) ③市民はこの取り組みを認知しているのか。市内の子供たちへの発信をすべきではないか。 ④周知やPRは大事。 ⑤宝探しのことか楽しかったのもっとやるべき。
H27 総合評価	
H28 総合評価	
H29 総合評価	△ 取組内容の見直し

総合戦略効果検証シート

46	周遊滞在型観光の推進				
2-2-2	④	日本型DMOの推進による「マーケティング」と「観光品質」の向上			
担当課		重要業績評価指標 (KPI) ※2019 (H31) 年度目標値		基準値 ※2014 (H26) 年度	
商工観光課		観光ボランティアガイド案内回数	300回	13回	
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
目標値			100回	350回	
実績値	—	125回	311回		
年度目標に対する達成率	—	—	311.0%		
基準値に対する増減率	—	861.5%	2292.3%		
評価			◎		
取組内容 PLAN	羽咋市を訪れてくれる観光客に対して、市内観光地のガイドサービスを行う。				
実績(具体的例:いつ、誰が、どこで、何を…)	平成29年度の実績は311回。妙成寺を中心に回数を伸ばしている。				
分析 Check	北陸新幹線の影響が継続し、団体の観光客が多いが、個人客の中で、SNSを中心にクチコミでのガイドの評価も高く伸びた。				
対応方向 Action	観光協会や観光施設と連携しながら、ガイドの確保を図りながら、研修等によりガイドの質を高め、より多くの観光客に羽咋市の魅力をPRできるよう努める。				

総合評価項目

◎	取組内容の深化・発展
○	取組内容の継続
△	取組内容の見直し
×	取組の中止・終了



有識者会議による検証評価

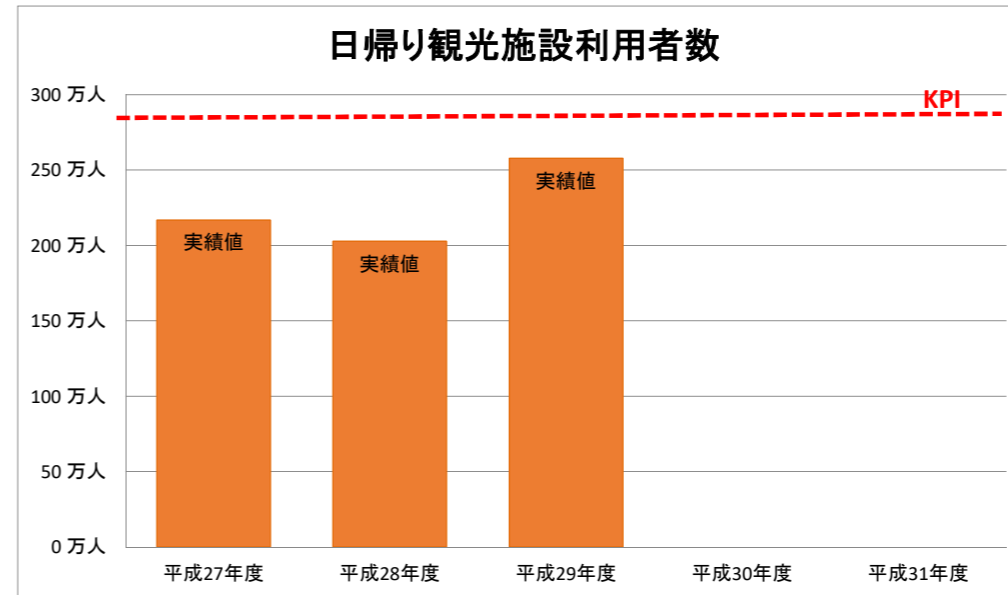
意見	平成27年度 ※総合戦略改訂後に追加した指標のため意見無
	平成28年度 ※総合戦略改訂後に追加した指標のため意見無
	平成29年度 ①ボランティアガイドの研修会を定期的開催。 ②ガイドの人数は十分か。 ③ボランティアガイド育成支援。 ④七塚めぐりなどのガイドツアーはどうか。ストーリー性を持ったパッケージツアーの検討を望む。
H27 総合評価	
H28 総合評価	
H29 総合評価	◎ 取組内容の深化・発展

総合戦略効果検証シート

47	魅力あふれる観光情報の発信				
2-2-3	①	観光資源の発掘、磨き上げの促進			
担当課	重要業績評価指標 (KPI) ※2019 (H31) 年度目標値			基準値 ※2014 (H26) 年度	
商工観光課	日帰り観光施設利用者数	285万人	202万人		
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
目標値	204万人	225万人	225万人	255万人	
実績値	217万人	203万人	258万人		
年度目標に対する達成率	106.4%	90.2%	114.7%		
基準値に対する増減率	7.4%	0.5%	27.8%		
評価	◎	○	◎		
取組内容 PLAN	①金沢駅の観光情報センターや観光列車「花嫁のれん」、首都圏等への出向宣伝を行い、観光誘客の促進を図っている。 ②県や近隣市町と連携しながら、旅行会社等へのアドバイスも取り入れ、ルート等の作成を行っている。				
実績(具体的例:いつ、誰が、どこで、何を...) DO	平成29年度日帰り観光施設利用者数: 258万人 日帰り観光客のうち、知名度の高い千里浜なぎさドライブウェイと気多大社が大部分を占めている。				
分析 Check	昨年度、道の駅のと千里浜がオープンした要因で、日帰り観光客は増加した。他の主要観光施設の多くは前年横ばい傾向。				
対応方向 Action	今年度も継続して道の駅のと千里浜の観光拠点施設としての機能を活用しながら、市内観光施設への周遊、県や近隣市町と連携を図り、誘客の促進を図る。				

総合評価項目

◎ 取組内容の深化・発展
○ 取組内容の継続
△ 取組内容の見直し
× 取組の中止・終了



有識者会議による検証評価

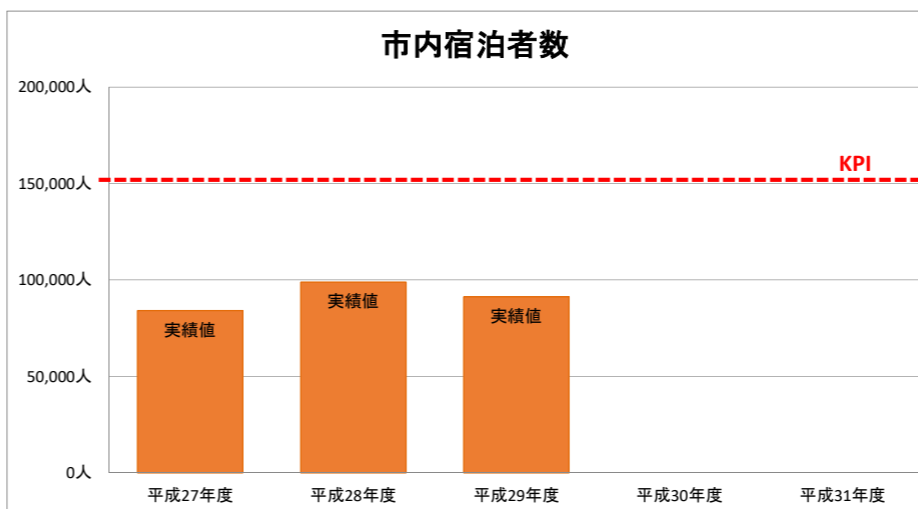
意見	平成27年度 ①「はくい」と読める人が少ないので、その部分でストーリーのあるPRをもっとした方がよい。 ②まず観光地としての人気2本柱として千里浜なぎさドライブウェイと気多大社をさらにイベント等を交えてPRすべきである。その波及効果により、他の観光資源の発掘、磨き上げを行うことが必要である。
	平成28年度 道の駅には観光案内などがあるので波及効果が出てくるだろう。その結果次第で今後評価していく。
	平成29年度 ①Checkの分析は大事である。 ②「ふるさと博」等で各市町とより連携し、誘客できるしかけ作りに努めてもらいたい。 ③「羽咋」に誇りを持つべき。「喰」は平安時代にできた国字。「咋」の方がずっと古い。
H27 総合評価	◎ 取組内容の深化・発展
H28 総合評価	○ 取組内容の継続
H29 総合評価	◎ 取組内容の深化・発展

総合戦略効果検証シート

48	魅力あふれる観光情報の発信			
2-2-3	②	市内宿泊施設利用の促進		
担当課	重要業績評価指標 (KPI) ※2019 (H31) 年度目標値		基準値 ※2014 (H26) 年度	
商工観光課	市内宿泊者数		150,000人	134,652人
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
目標値	80,000人	90,000人	100,000人	120,000人
実績値	84,091人	98,828人	91,262人	
年度目標に対する達成率	105.1%	109.8%	91.3%	
基準値に対する増減率	-37.5%	-26.6%	-32.2%	
評価	◎	◎	○	
取組内容 PLAN	近隣市町や観光協会等と連携し、市内観光・広域観光の情報発信を行い、市内に滞在してもらえるよう案内を行う。			
実績(具体的例:いつ、誰が、どこで、何を...) DO	平成29年度実績 市内観光施設に91,262人の宿泊があった。			
分析 Check	日帰り観光客の数は増加したものの、宿泊者数は減少した。昨年度は、新幹線開業により日帰りで訪れる観光客が多かったと思われるが、新幹線開業2年目で金沢の一極集中から、羽咋を宿泊の拠点に能登をめぐる観光客が増えたと思われる。			
対応方向 Action	観光協会等と連携しながら、道の駅を拠点とした積極的な情報発信を行い、通過型観光から滞在・滞留型観光へのシフトし、宿泊者増加を目指す。			

総合評価項目

◎ 取組内容の深化・発展
○ 取組内容の継続
△ 取組内容の見直し
× 取組の中止・終了



有識者会議による検証評価

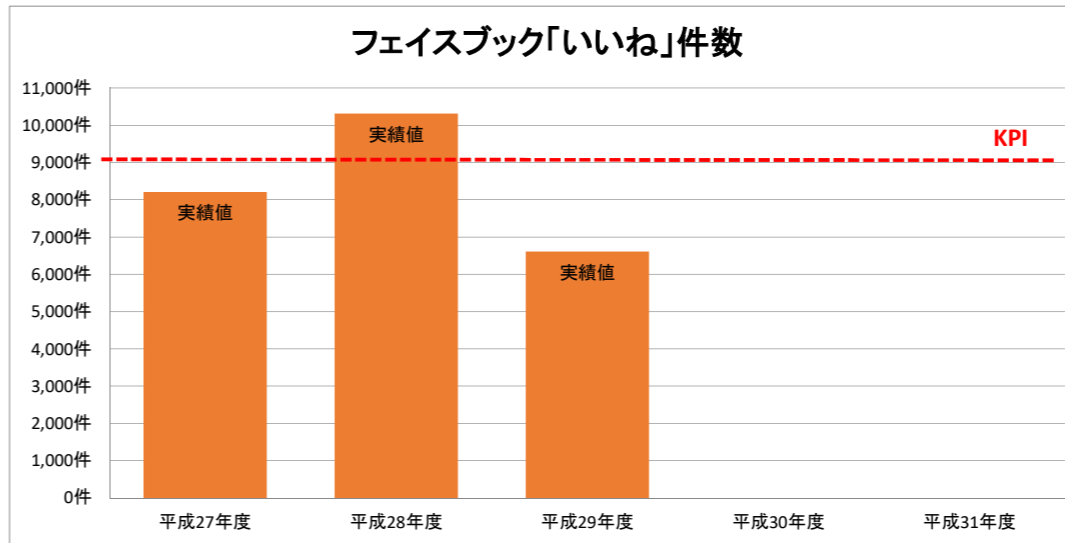
意見	平成27年度 ①民泊本格解禁に向け、空き家の利用等も含めて議論を進めてはどうか。 ②滞在・滞留型観光へシフトする具体策の明確化を。 ③道の駅を起点として市内に滞留。
	平成28年度 ①空き家の利用を促進してほしい。 ②観光の案内を宿泊施設や道の駅等とどのように連携していくのか、具体策がほしい。 ③利用者増が、情報発信のおかげなのが見えない。具体的な施策の記載がない。 ④SSTR、我山道トレイルラン等、自然・歴史・文化を取り入れた観光イベントを誘致。金沢と奥能登の観光拠点としてPRや道の駅を拠点とした夕方から行うイベントなど。 ⑤さらに取り組みを進めて。
	平成29年度 ①合宿、大会を誘致するためには体育館の冷房化、サッカー、陸上グラウンド等ハード面の充実が先ではないか。 ②民泊解禁にあたり、かなり後ろ向きな行政もあるが、羽咋市としてのスタンスを伺いたい。 ③SSTR、トレイルラン時の民泊推進を。羽咋市内に宿泊できるようになれば、他へ宿泊客をとられずに済む。イベントを通して民泊に慣れていけば、受け入れ側も増えていく。羽咋市内に宿泊施設が足りないというウワサ改善にもなるのでは。
	H27 総合評価 ◎ 取組内容の深化・発展
H28 総合評価 ◎ 取組内容の深化・発展	
H29 総合評価 ○ 取組内容の継続	

総合戦略効果検証シート

49	魅力あふれる観光情報の発信				
2-2-3	③	多様なツールを活用した羽咋ファンの拡大			
担当課	重要業績評価指標 (KPI) ※2019 (H31) 年度目標値		基準値 ※2014 (H26) 年度		
秘書室	フェイスブック「いいね」件数	9,000件	443件		
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
目標値	480件	9,000件	10,000件	7,000件	
実績値	8,209件	10,314件	6,609件		
年度目標に対する達成率	1710.2%	114.6%	66.1%		
基準値に対する増減率	1753.0%	2228.2%	1391.9%		
評価	◎	◎	○		
取組内容 PLAN	交流人口の拡大につなげるため、特に、他に類を見ないオンリーワンの観光地としての羽咋の魅力についてフェイスブックを活用し、効果的に発信する。				
実績(具体的例:いつ、誰が、どこで、何を...)	SNSのうち、現在、多くのユーザーが利用するフェイスブックで、市に関する情報発信を積極的に行い、ユーザーが記事に興味を示した指標となる「いいね」件数を年間で10,000件獲得する。				
DO					
分析 Check	平成27年度、28年度と比較すると、かなり「いいね」件数が減少する結果となった。情報伝達手段が急激な勢いで進化する昨今、フェイスブック以外にもインスタグラムなどの新たなSNSツールが生み出され、若者を中心にユーザーの一部がそちらに移ったことが大きな要因ではないかと考えられる。				
対応方向	①上記の理由から、特に、若者を中心にユーザーが減少傾向にあると考えられるが、依然として多くの人がフェイスブックを利用している状況であるため、これまで同様にフェイスブックによる情報発信を行っていく(ただし、平成30年度目標値は、平成29年度実績値を鑑みた数値に調整する)。 ②インスタグラムなどの他のSNSの運用については、ユーザーの利用状況や他市町の運用状況などを考慮して検討していく。				
Action					

総合評価項目

◎ 取組内容の深化・発展
○ 取組内容の継続
△ 取組内容の見直し
× 取組の中止・終了



有識者会議による検証評価

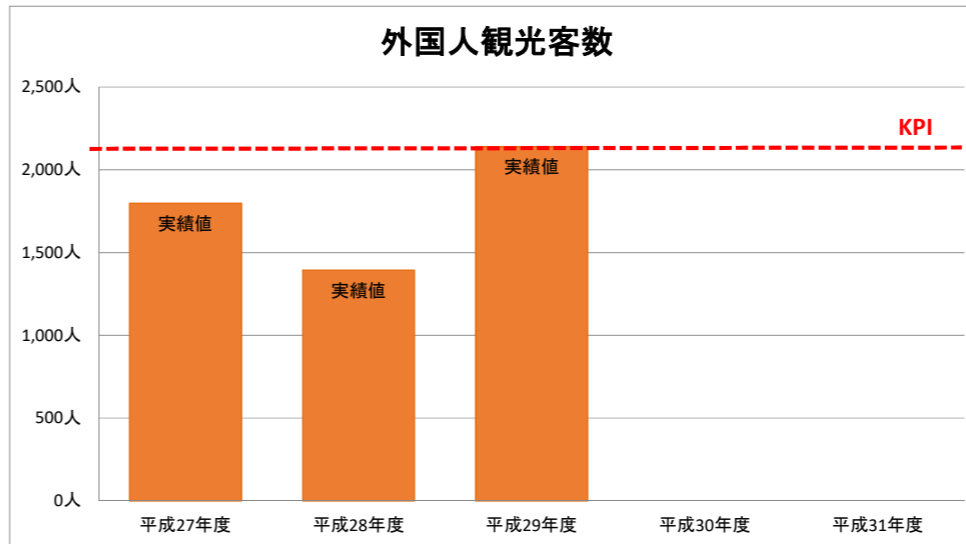
意見	平成27年度 特になし
	平成28年度 ①どのような情報を発信したのか知りたい。フェイスブックはもとより、メディアの活用は行わないのか。予算上難しいか。 ②企業のようにアンバサダー採用なども考えても良いかもしれない。 ③閲覧数に対して、いいねがどれくらいかを出すのも良いと思う。(アクション率) ④継続に意義あり。
	平成29年度 ①今の時代になくはならない施策。 ②千里浜海岸「夕日ライブカメラ」の設置。 ③硬い文章が多い。羽咋が大好きな、ウィットに富む職員に担当させてみては。 ④SNSは今や情報発信に欠かせないツールとなっているので、より磨きをかけて頂きたい。 ⑤インスタグラムもやってください。 ⑥情報発信の頻度に緩急をつける。1日3回発信する日もあれば、4日あける等の日も作り、「何事もない平和な日々...」などと言っておく。イベントや情報がない日も、市内ぶらぶら散歩道中等と言って花や空や海、山、星、川などの風景をUPする。 ⑦Facebookだけを指標とするのではなく、他のSNSも活用してよいと思う。(それぞれで特徴が異なるため。)
H27 総合評価	◎ 取組内容の深化・発展
H28 総合評価	◎ 取組内容の深化・発展
H29 総合評価	○ 取組内容の継続

総合戦略効果検証シート

50	魅力あふれる観光情報の発信			
2-2-3	④	インバウンド観光の推進・充実		
担当課	重要業績評価指標 (KPI) ※2019 (H31) 年度目標値		基準値 ※2014 (H26) 年度	
商工観光課	外国人観光客数		2,100人	1,412人
	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
目標値	1,450人	1,900人	1,900人	2,000人
実績値	1,798人	1,394人	2,139人	
年度目標に対する達成率	124.0%	73.4%	112.6%	
基準値に対する増減率	27.3%	-1.3%	51.5%	
評価	◎	△	◎	
取組内容 PLAN	平成27年度羽咋工業高校が設置した看板の改修しながら、外国人観光客に対し、千里浜なぎさドライブウェイのPRを行った。			
実績(具体的例:いつ、誰が、どこで、何を…)	平成29年度: 2,139人 千里浜レストハウスへの入込が多数を占めている。			
分析 Check	団体バスツアーでの訪れる外国人旅行者が多く、個人旅行者が少ない傾向にある。			
対応方向 Action	県や近隣市町、観光協会、旅行会社等関係機関と連携し、情報発信に努める。			

総合評価項目

◎ 取組内容の深化・発展
○ 取組内容の継続
△ 取組内容の見直し
× 取組の中止・終了



有識者会議による検証評価

意見	平成27年度 ①インバウンド観光が団体旅行から個人旅行に、大都市観光から地方都市観光、短期滞在から長期滞在に、買物施設観光から文化生活体験に移りつつあるなか、2020年に向けて民泊の規制緩和が見込まれており、羽咋市でも民泊条例について少しずつ検討してはどうか。 ②外国人へのアピールになるもの (1)世界で3ヶ所しかない車で走れる浜 (2)ローマ法王が食べている米 (3)ほんもののロケットがある宇宙博物館 ③滞在・滞留してもらえるような施策があるとよい。
	平成28年度 ①ほとんどが携帯で情報を得ている。 ②今後、宗教による食べ物の対応ができるか。 ③QRコードなどの利用の有効性、ホームページなどで多言語対応していけるか考える。
	平成29年度 ①外国語講座、外国文化講座の開催。 ②団体バスツアー向けでは宿泊ベッド数が少ない羽咋市では期待が持てない。やはり民泊を推進し個人旅行者を増やす努力が必要では。 ③体験型のメニューも必要ではないか。 ④アクティビティを充実させるとよい。外国人は体験を好む傾向にあるため。 ⑤ハラル認証を受けるための支援をし、認証を受けたレストランや食料品店のPRを大々的にする。
	H27 総合評価 ◎ 取組内容の深化・発展
H28 総合評価 △ 取組内容の見直し	
H29 総合評価 ○ 取組内容の継続	